

大草谷津田いきものの里 自然観察会

白いチョウはモンシロチョウ？

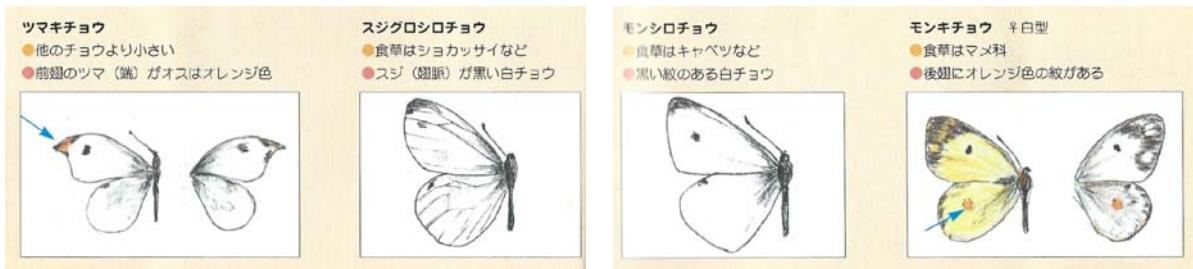
太田慶子（千葉市）

日 時：2013年5月5日（日）10:30～12:00 天候：快晴

参加者：名（大人14名 子ども3名）

担当指導員：太田慶子・山下美佐子

広場での集合時に「白いチョウはモンシロチョウ」と思いがちだが、この時期は東京周辺では4種類の白いチョウが見られることを、イラストの<モンシロチョウ・スジグロシロチョウ・モンキチョウの♀・ツマキチョウ>と、冷凍保存したモンシロチョウとツマキチョウ♂の実物で説明した。



ただ、今年のこの時期、主に2つの理由から白いチョウが少ないことを話す。1つには<2年続いた厳冬と、この頃の寒暖の差の激しさで変温動物の虫の絶対数が減っている>と思われること、2つには<3月に急に暖かくなったのでチョウが早めに羽化して、今は幼虫か蛹の状態にあるものが多く、成虫の状態のものが少ない>だろうこと。

朝の下見の時には白くないチョウが何種類か飛んでいたので、日当りのよい谷津まで歩いた。黒いナガサキアゲハ（尾状突起がないことが特徴）・アゲハ（子どもが捕まえていた）・アオスジアゲハ・ジャコウアゲハなどの大型のアゲハがときどき通り過ぎる。けれど、白いチョウは見えず、田んぼの主はシオヤトンボとオタマジャクシたち。子ども達がアカガエルのオタマジャクシを捕まると、後ろ脚が出ている個体が多く、まもなく1.5cmくらいの子ガエルになるだろうと話す。小さな黒いオタマはヒキガエル。この日は端午の節句だったので、水路の本物のショウブの葉をつまんでいい香りをかいでもらう。「ショウブはアヤメとは違うんですか」と、意外そうな参加者も…。

最初白っぽいから…と思ったチョウはコミスジ。やっと林縁に白いチョウが見えたので、そばにいた男の子に捕まえてもらったら、今度はスジグロシロチョウだった。また、お父さんが子どもに頼まれて小さなチョウを捕まると、ヤマトシジミやベニシジミ。お母さんは図鑑を見て、どのチョウか分からないとおっしゃる。「確かに図鑑の写真だけ見ても、これと決めるのは難しく、どの季節に発生するか、幼虫の食草のあるところか、などから絞っていき、このチョウだと決めていくんですよ」と話すと、「虫も奥深いんですね」とおっしゃる。最後にお母さんのために？スズメノテッポウとシロツメクサの草笛を楽しんでもらい、帰路で目についたムラサキケマンの実がはじけるのを実際に触ってもらうなどして、最後まで自然を楽しんでいただいた。

感想は、「白いチョウはモンシロチョウだと思っていたけど、そうでもないことを説明してもらってよかったです」という嬉しい言葉。「フジが本当にきれいでした」「命のつながりのようなを感じた」「子どもはチョウとトンボを捕まえて喜んでいたが、自分は涼しくて空気が澄んでいて、谷津田の中ではマスクをしないですみました（花粉症らしい）」「普段道端でふつうに見ている植物でも知らないものが多く、教えてもらってよかったです」など。